事業推進の心　仮設労働安全新生プラン
陽のあたる安全文化の創造
もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる 心豊かな国創り

ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

Vol.121

編集・発行人　篠田伸夫
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103－0001
東京都中央区日本橋小伝馬町
15－18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640

北海道支部　〒004－0015　札幌市厚別区下野幌テクノパーク２－１－14　電話(011)899-3275　ＦＡＸ(011)899-3276
東北支部　〒980-0802　仙台市青葉区二日町13-22-407（カルコスビル４Ｆ）　電話(022)713-6051　ＦＡＸ(022)713-6052
関東支部　〒103－0001　東京都中央区日本橋小伝馬町15－18（日本橋ＳＫビル５Ｆ）　電話(03)3639-1571　ＦＡＸ(03)3639-3980
北信越支部　〒950－0923　新潟市姥ヶ山6-5-26（臼木ビル2-B）　電話(025)257-0066　ＦＡＸ(025)257-0067
中部支部　〒457-8535　名古屋市南区浜田町1-10　２Ｆ　電話(052)614-0701　ＦＡＸ(052)614-0705
近畿支部　〒550－0006　大阪市西区江之子島１－６－8（シャンピア阿波座1003号）　電話(06)6443-5213　ＦＡＸ(06)6443-5214
中国支部　〒730－0016　広島市中区幟町3－55（幟町ゼネラルビル6Ｆ）　電話(082)511-2051　ＦＡＸ(082)227-2720
四国支部　〒769－2101　香川県さぬき市志度1883-1（大河原ビル202）　電話(087)814-2245　ＦＡＸ(087)814-2246
九州支部　〒811－2101　福岡県糟屋郡宇美町大字宇美字古野ノ口3426-9　電話(092)957-0032　ＦＡＸ(092)957-0033

ホームページhttp://www.kasetsuanzen.or.jp/ Eメールinfo@kasetsuanzen.or.jp　各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

職人の安全確保は事業活動の大前提―安全なくして経済なし―

中部支部安全座談会

仮設安全監理者資格取得がポイント!!

今回は、中部圏内で安全ビジネスにまい進する地場ゼネコンである長瀬土建の長瀬雅彦代表取締役と劔崎建設の劔崎雅文代表取締役の両者を、全国仮設安全事業協同組合（アクセス）中部支部の近藤昌三支部長と小牧知宏岐阜支所長兼青年部幹事が訪問し、今後の安全方針や建設労働災害撲滅運動について語っていただきました。司会は、赤峰民生同組合企画広報部長が担当しました。

長瀬土建代表取締役　**長瀬　雅彦氏**

劔崎建設代表取締役　**劔崎　雅文氏**

全国仮設安全事業協同組合
中部支部長　**近藤　昌三**

全国仮設安全事業協同組合
岐阜支所長兼青年部幹事　**小牧　知宏**

――近藤支部長から支部の活動内容についてから話していただきます

近藤　まず私の方から中部支部の安全の取り組みについて口火を切らせていただきます。支部活動としては毎月、支部の人間が集まって「手すり先行工法に基づく働きやすい安心感のある足場」の普及方法について話し合い、適時、研修会やゼネコン、諸団体との協力の下、仮設安全監理者資格取得講習会を開催しております。

アクセスは、仮設に起因する労働災害撲滅の活動が主たるもので、国土交通省、経済産業省の認可を得て、ほかには厚生労働省、総務省、農林水産省からのご指導を得ています。年々、建設労働災害は減ってはいますが、建設投資が下がったことに比べ、建設労働災害の比率は高いことは明らかです。しかも今年、建設労働災害が逆に増えていることは、大きな問題です。本組合はさらなる努力しなければならないというのがスタンスです。

また今、労災保険で国から巨額なお金が使われていますが、実は建設労働災害を減少させれば、この労災保険の掛金も安くなり、建設労働災害撲滅を実現することで、計り知れない経済的メリットが生まれるものと信じます。

青年部会が本格始動

――次に最近、本格的に活動を始動した青年部について、小牧支所長兼青年部幹事から説明をお願いします

小牧　私の方からはアクセスの青年部についてご紹介します。今まで組合規程の中で青年部という存在はあったのですが、今年5月25日、明治記念館（東京都）で青年部設立総会を開催し、正式に発足いたしました。現在、若い経営者への世代交代が活発に行われており、世代が代わっても組合活動が今後も円滑に運営されるためには、次代を担う経営者の方々で青年部を構成し、この組織を活用して組合活動をより活発化することがたいへん重要であるとの問題意識から活動を本格化しました。われわれ青年部は若い目線、現場目線を重視した活動を推進します。今後は、組織強化について具体案を検討しますが、本組合の若手の方にぜひとも参加を呼び掛けてまいりたいと存じます。

2社の安全方針

――ところで最近は墜落事故が多発しており、非常に危機的な状況です。全国の墜落災害を撲滅できれば、建設業も明るい未来が開けると存じます。施工者のお2人からぜひ、各社の安全方針についてお話をちょうだいしたいと存じます

劔崎　民間建築がメインであるわが社は最近、アクセスにお世話になっています。私は、先代から継いで代表取締役になって20年たちます。昭和63年のバブル時代に、あるゼネコンが岐阜市内のマンション工事を受注することになり、私どもに下請工事の話がありました。その工事は8階建てだったのですが、その規模の工事は未経験でしたので、ゼネコン安全部から厳しいご指導をいただいたことがきっかけになって本格的な安全活動にまい進することとなりました。それはわが社にとって大きな天佑であり、このことによって今のわが社があるといっても過言ではありません。

今回、日本建設さんから表彰を受けた際、アクセスの仮設安全監理者資格取得講習会を知ることになり、まず社員5人を受講させ、その後、社員とわが社の関係会社向けに資格取得講習会を開催していただき33人が受講し、現場で積極活用しております。わが社は民間の仕事が中心ですが、全体的なレベルアップを図っている最中です。今後、公共工事の受注を増やすことも考えられますが、岐阜県や岐阜市も総合評価方式を行っているものですから、いかにして総合評価で安全点を加点していくことが重要になってきます。

仮設安全監理者資格取得講習会は、同様の目的の他の教育と比べて、CPD（継続教育）のポイントが高く、総合評価の安全評点の向上につながります。

総合評価の安全評点向上に直結

長瀬　わが社は劔崎建設さんと違いまして土木がメインで公共工事が98%です。実は私も劔崎さんと同じく2代目です。足場で言いますと、橋梁の躯体工事が中心で、先日もアクセスさんのおかげで、国土交通省中部地方整備局高山国道事務所管内のピア14基の工事現場を新聞記事に取り上げていただきました。

先代の社長は安全に対して意識が強く、昭和43年に昔の山林事業所の治山工事で雪崩災害がありましたが、作業員は、運が良く一人もけががなく救出できました。それ以来ずっと安全大会を開催し、通常朝礼から昼礼、危険予知やリスクアセスメントの訓話を行っています。これまで33年間無事故・無災害だったのですが、ことし3月26日に昼休み中に重機の入れ替えの際、下請けの不安全行動により不幸にも事故がありました。

しかしこれまでやってきたことは無駄ではありません。安全とは進化するべきもので、プロセスが重要です。先般、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格「OHSAS（オーサス）18001」を取得しました。後は現場関係者皆で話し合い、作業で配慮すべき危険源を繰り返し討議し、見直し、注意することによって、事故やリスクは軽減できるものと確信しています。

ハード面の足場については平成6年に中部縦貫道工事小鳥川下部工事で、非常に高いピアがあり、これに当時ほとんど普及していなかった「手すり先行工法」の安全柵に独自に着目いたしまして、同工事での採用を機会に、一斉に「手すり先行工法」を採用することとなりました。最終的に表彰されましたが、作業員の安全が担保できると思いました。公共工事が厳しくなりますと、真っ先に切るのは安全経費です。しかし、私は安全経費を切ることはだめだと思います。また、お金をかけずに工夫する方法があるはずで、会社で討議し総合評価をあげてもらうよう検討しました。幸い後から見ると、総合評価での安全点は高い評価を受けていることは当社の誇りであり、これがわが社にとっての安全ビジネスだといえます。

実は最近、高山地区のトンネル工事などで中央のゼネコンが落札するのですが、どこかいい下請けはないかとリサーチするとわが社に下請けに回すというケースが増えています。私は特に中央のゼネコンに営業活動で回っているわけでもないのですが、地元で安全に工事をやる会社と言うことで自然とわが社に仕事が回ってくると言うことです。安全に勝る営業はないと実感している次第です。そのあたりは、劔崎建設さんの安全ビジネスと共通しているのかなと思います。

公共事業の発注者も注目

――確かに総合評価方式によって両社にフォローの風が吹いていますね。今後は、先行工法に基づく働きやすい安心感のある足場」の実施、ソフト面では、仮設安全監理者等という有資格者による第三者がチェックリストに基づく足場の安全点検を徹底すれば、墜落事故の撲滅に限りなく近づくでしょう。同公社の先進的な取り組みは、建設労働災害撲滅の近道ですね。

長瀬　まったく同感ですね。

近藤　お2人からそういっていただきまして、アクセスの活動もより一層奮起したいと存じます。

現場から見た実態

――現場サイドから見た足場の実態はいかがですか

小牧　安全に関しては法律で縛りをつけることも重要ですが、労働安全衛生規則の改正時に、費用の問題などで現場事務所への働きかけが足りないところもあり、思った以上に採用しないところがありました。ひどいところだと、一部、手すり先行工法を使ってそこだけ写真を撮って発注者に報告するというところもありました。法律も大事ですが、運用はより肝要だと存じます。しかもこのままだと、建設業は、危険がつきまとうというイメージがより一層強まり、人がますます入ってこなくなります。そして建設技術の伝承もされなくなり、建設業も立ちゆかなくなることを懸念しています。

――重ねて、劔崎建設さんと長瀬土建さんが仮設安全監理者をお聞きしたいのですが

劔崎　わが社及び協力会社で足場を組んだり作業したりする人を集めると33人にのぼりまして、当方からぜひ中部支部さんにお願いをして講師の人を呼び受講しました。後に中部支部さんからも聞きましたが、これだけまとめて受けた事例というのは少ないそうですね。縁というのも不思議であって日本建設さんとの縁があればこそ、仮設安全監理者の資格を知ることができました。このこともわが社にとっては、安全活動における天佑です。

長瀬　私どもは足場作業主任者よりもっとレベルの高い足場に関連した資格が欲しいと思っていたところ、この仮設安全監理者の存在を知りまして6人が資格を保有しています。わが社は年間20時間、継続教育の講習を受けることをルールとして定めております。実はこれはCPDができる前から実施しています。

劔崎　それはすばらしい取り組みですね。うちもISO9001を取得したばかりですが、これからさらに勉強を続け、今後とも国際規格の取得を検討致します。

長瀬　わが社は、ISO9001、140001、OHSAS18001を取得し、今度、ISO27001を取得する予定です。わたしはこれらの国際規格の審査員でもあります。仕組みというのは非常に重要です。

近藤　本日は地場ゼネコン2社の先進的な取り組みの話が聞けてたいへん参考になりました。この先進的な取り組みについてアクセス新聞を通じてご紹介してまいります。

小牧　今日はありがとうございます。ぜひともお二方には、アクセスをうまく活用して安全文化にまい進され、この会合を機会に連携を深めたいと存じます。

安衛部長通達の法制化、業法改正が必要

座談会出席者

長瀬雅彦長瀬土建代表取締役
劔崎雅文劔崎建設代表取締役
近藤昌三アクセス中部支部長
小牧知宏アクセス岐阜支所長兼青年部幹事
司会：赤峰民生アクセス企画広報部長